

# こしえるびと

つむぐストーリー vol.134

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。  
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の  
メッセージをシリーズで紹介していく。

## 東京からのインターン就農

ビニールハウスが立ち並ぶ藤沢町内の一画。春の陽気に暖められたハウスの中で、ピーマン苗の鉢上げに励む立川正和さんの姿がある。

大学卒業後は全国各地を転々とする生活を送った。オーストラリアに留学したこともあれば、銀座のバーで働いたことも。正和さんはいつしか、「手に職を、地に足を付けなければ」と考えるようになり、東京で開催された「新・農業人フェア」を訪れた。一関市のブーナスに立ち寄ると、一関地方では新規就農者への支援制度が手厚く整えられていることを知る。その説明が強く印象に残り、就農を決意。2014年に一関へ拠点を移した。

## 勉強を繰り返す毎日

一関地方トータルサポートシステムを利用してJA研修生となった正和さんは、トマトとピーマンを栽培品目にした。先輩農家から日頃の管理作業や経営ノウハウを1年半かけて学び、16年に新規就農を果たす。藤沢町徳田地区でJAが貸し出しているビニールハウスを5棟借り、農家として歩み始めた。

現在は栽培品目をピーマンに一本化。就農当初から時間を掛けて栽培面積を拡大していき、今ではハウスと露地合わせて23アでの生産に励んでいる。「うまくいかないことも多く、勉強の毎日。それでも新しい発見をしたときはとてもうれしい」と笑顔を見せる。

## 農業を続けていくために

昨夏日本全域を襲った猛暑と水不足。例に漏れず、正和さんも苦しめられた。それでも冷静に、何をしていくべきかを考えながら次のシーズンの計画を立てる。「駄目だったときは駄目だったなりに、何を改善していけるかを考えた」と動じず力強く前を向く。

正和さんの目標は、70歳まで農業を続けていくこと。今後も長く楽しく続けていくために、「農繁期は特に体に気を使いながら、初心を忘れず、日々勉強の気持ちで大事に過ごしていきたい」と語る。

季節は巡り、作付けの季節がやって来た。果たして今年はどうなるのか。正和さんの挑戦が、また始まる。

長く楽しく農業を続けていきたい

藤沢町砂子田 立川 正和 さん



## PROFILE

**立川 正和**さん (51)  
Masakazu Tachikawa  
藤沢町砂子田

1974年埼玉県浦和市生まれ。東京で開催された新・農業人フェアをきっかけに一関市に移住し、JA研修生を経て2016年就農。ピーマン23畝。妻と2人暮らし。

